

早稲田大学における中国との関わり：日中民間友好交流の実践者

北京第二外国語学院学生代表

見学日時：2023年12月1日（金）14:30-20:00

見学場所：早稲田大学

見学概要

まず私たちは早稲田大学の学生の引率の下、歴史館に向かい早稲田大学の歴史や世界的な地位について知った。

その後、早稲田大学の先生の解説を通じ日中両国の民間友好交流において早稲田大学が果たしてきた様々な貢献について私たちはさらに理解を深めることができた。

早稲田大学は長い歴史を持つ日本の私立大学で、歴史館には中国の指導者や学者らと早稲田大学との友好交流や提携事業を含む多くの重要な史料が保存されている。またこれまで李大釗やアインシュタイン等多くの世界的偉人が早稲田大学を訪れ名言を残すなど、それぞれの時代において早稲田大学と関わりを持っている。

早稲田大学は中国とハイレベルの交流をしており、多くの学生が中国に関連した学問を専攻している。また双方は学術研究や学生の交流等の面で幅広い協力をしている。その他、早稲田大学はさらに中国文化イベントの開催及び中国の芸術家や文化団体を学校に招いての公演等、様々な文化交流活動を積極的に実施することで両国の人々の相互理解と友好を増進するなど、日中の民間における友好を実践している。

また早稲田大学は学生のあらゆる面での成長を重視しており、「アジアのリーディングユニバーシティ」とのスローガンを掲げ学生の世界的視野を広げると共に、漢学、国学等の伝統文化学科の発展も重視しており、それらを現代教育と融合している。また多くの中国の指導者や学者らとの友好関係を継続し、日中の友好的国交の発展を後押ししている。その他、個性の尊重は早稲田大学がこれまで継続してきた理念の1つとなっている。長い歴史を持つ日本の私立大学である早稲田大学は日中の友好交流の推進に尽力し続けている。



ご存じですか？

問：早稲田大学にも中国との関わりがあるのか？

答：早稲田大学には中国及び北京大学との歴史的な関係が存在する。早稲田大学では現在、約3分の1の学生が中国に関連した学問を専攻している。日本そして早稲田大学では中国にまつわる足跡をたどることができる。先頃、中国駐日大使は早稲田大学の元総長らと共に李大釗の旧宿舎を訪ねその足跡をたどっている。李大釗はかつてこの場所で「吾が青春でもって、青春の家庭、青春の国家、青春の民族…をうち建てよう」との詩である「青春」を残しており、当時の進歩的青年らと共に国政に思いを馳せていた。

問：日本のトップクラスの大学が掲げる世界との連動に関する理念の違いは？

答：慶応大学は「脱亜入欧」をスローガンとしており、これはアジアの伝統からの脱却と欧米の文化や教育体系との全面的な融合といった目標を追求することを意味している。これはまた日本が近代化の過程において西洋に学び近代化を追求してきたとの傾向を反映している。

東京大学は「国家の支柱」として評価されており、これは同大学の日本国内の高等教育分野におけるリーダー的地位及び日本の社会、経済、政治の発展に関し果たしてきた貢献を代表するものである。東京大学は日本で最も有名な高等教育機関の1つとして、これまで日本の政界、経済界、学術界等様々な分野におけるリーダーを輩出している。

そして早稲田大学は「アジアのリーディングユニバーシティ」とのスローガンを掲げており、これは早稲田大学がアジア地域の各国との交流及び提携推進に力を入れることを示している。早稲田大学はこれまで国際化教育を非常に重視しており、世界各地からの留学生を積極的に招くと共に沢山の学術的また文化的交流の機会を提供している。さらに早稲田大学は様々な分野においてアジア各国と幅広い提携及び交流を進めるなど、アジア地域の発展と繁栄を後押しするとの優れた貢献を続けている。



感想

今回の早稲田大学訪問では、歴史館を見学した他、早稲田大学の優秀な学生と踏み込んだ交流をすることができた。今回の訪問では沢山の収穫が得られたが、その中でも印象深かったのは早稲田大学による日中の民間友好への様々な取り組みそして両国の学生の進路選択における違いであった。

まず、私たちは早稲田大学の日中の民間友好交流促進における固い決意そしてたゆまぬ努力を強く感じた。歴史館内には中国に関する多くの史料や写真が保存されているなど、早稲田大学と中国との教育、文化、科学技術等分野における交流や提携の成果が展示されていた。これらの貴重な文物及び資料は早稲田大学の100年以上に亘る中国との深い関わりそして提携の歩みにおける立会人的存在である。早稲田大学は様々な文化交流活動や学術研究協力等の手法で日中両国の相互理解と友好増進のための優れた貢献をしており、日中民間友好交流における真の実践者だと言える。

次に、早稲田大学の学生との交流において私たちは日中両国の学生の進路選択における大きな違いに気づいた。日本では多くの学生が学部を卒業した後に直接就職するケースが多く、学術研究に興味があり、関連研究分野に従事したい学生のみがさらに勉強を続ける。これは中国の状況とは異なっていて、中国では学生が大学院に進み自身の学歴や競争力を高めるケースが多い。こうした違いは日中両国の教育文化や社会環境等の違いを反映したものであり、異なる国の間の教育理念や人材育成方法における多様性を強く感じた。

今回の訪問及び交流活動を通じて、私たちは早稲田大学の歴史や文化について理解を深めただけでなく、さらに世界的視野を広げ、異文化交流能力を高めることができた。今回の経験は今後の学習やキャリアに良い影響をもたらすと確信している。